三年　ステップ２　解答

14　古文２　古文の読解

組	番号	氏名

1　次の文章を読んで、問いに答えなさい。

【平成十七年度　宮城県公立高校入試問題】

篳篥（ひちりき）師用光（もちてる）、南海道に発向のとき、海賊にあひにけり。用光をすでに殺さんとする時、海賊に向かひていはく、我久しく篳篥をもて朝につかへ、世（しゅくごふ）にゆるされたり。今いふかひなく賊徒のために害されんとす。これ宿業のしからしむるなり。しばらくの命を得させよ。一曲の雅声をふかんといへば、海賊ぬける太刀をおさへてふかせけり。①用光、最後のつとめと思ひて、泣く泣く臨調子を吹きにけり。その時、なさけなき群賊も感涙をたれて用光をゆるしてけり。あまさへ淡路の南浦までおくりておろし置きにけり。諸道に長（た）けぬるは、②かくのごとくの徳をかならずあらはす事なり。

（「古今著聞集（ここんちょもんじゅう）」による）

※篳篥…雅楽に用いる竹製の笛。
臨調子…篳篥の秘伝の一曲。
宿業…前世の約束事。
あまさへ…その上。

①　右の文章中から、用光の発言にあたる箇所を抜き出し、はじめと終わりを、それぞれ三字で答えなさい。

我久し　～　ふかん

注 古文の会話文の書き表し方の特徴を覚えよう。『「～が言うには、・・・」と。』のように、会話文の直後には、「と」という助詞が続くことが多い。

②　右の文章中に「①用光、最後のつとめと思ひて」とありますが、このときの用光の気持ちを説明したものとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　自らの人生を篳篥にかけてきた、その思いのすべてを吹き納めの一曲に込めて演奏しようという気持ち。
イ　自分から望まない演奏であっても、命じられた最後の仕事を冷静になって淡々とこなそうという気持ち。
ウ　篳篥を吹けなくなるのはつらいので、最高の演奏で感動させて自分の命を助けてもらおうという気持ち。
エ　命を助けてもらったお礼に、自分の得意とする篳篥の演奏で海賊の心をいやしてあげようという気持ち。

ア

③　右の文章中に「②かくのごとくの徳をかならずあらはす事なり。」とありますが、その内容を説明したものとして、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア　一つの道で能力を発揮する人は、何気ないふるまいから自信が伝わるので他人から信頼を寄せられるようになること。

イ　一つの道で苦労を味わった人は、相手の心を深く理解し他人に対しても優しく接することができるようになること。

ウ　一つの道で地道に努力を重ねた人は、精神が鍛えられてどんな状況におかれても平然と行動ができるようになること。

エ　一つの道で円熟の境地にある人は、優れた技量で周囲を感動させ他人の考えや行動に影響を与えるようになること。

エ